編集後記

長岡で開催された第 61 回分析化学討論会では「ダウンサイジング」のテーマで主題討論が行われ，名古屋大学名誉教授の石井大道先生が「化学分析におけるキャピラリーの活用」のタイトルで特別講演をされ，又，岡山大学本水昌二先生の主題討論での「フローインジェクション分析法のダウンサイズ化と環境分析への応用」，山梨大学山根　兵先生の一般講演での「ミクロ粒子固相を分離，反応，検出などの一体化した場とする FIA システムの検討」が，本討論会の展望とトピックスに選ばれ，フローインジェクション分析法(FIA)が大いに脚光を浴び，「分析の自動化」「ゼロエミッション化」「ダウンサイジング」を目指してきた FIA 研究の成果が高く評価されていることに関係者として大いに感嘆するとともに強い刺激を受けました。

さて，Journal FIA は 2000 年を機に，A4 版に模様替えを行い，「分析化学」「Analytical Sceiences」に合わせ，2 段刷りとしました。体裁的にはいかがでしょうか。ご意見，ご感想をお寄せ頂ければ幸いです。それに伴い「投稿規定」が変更になりました。ご確認の上，奮ってご投稿ください。

元会長の石橋信彦先生を始め，諸先輩の先生方が Journal FIA の internationalize を望んでおられ，編集委員会もそうなりたいと願って努力しておりますが，最近外国からの投稿が増えており喜んでおります。Univ. of Washington の Professor Gary D. Christian には JFIA の発展にキメ細かい力添えを頂いており感謝しております。

又，今回は溶媒抽出/FIA の最初の提案者である University of Stockholm の Professor Bo Karlberg に Review「FIA Coupled to Capillary Electrophoresis – A Tool for Process Monitoring?」を寄稿頂きました。この研究は最近国内の種々の学術雑誌にトピックスとして紹介されておりますが，JAFIA の皆さんに関心をもって読んでいただける内容と思っております。

Professor Bo Karlnerg は大変多忙でしたが，脱稿日までに原稿を送っていただきました。彼の協力に感謝します。このような企画は JFIA の発展にも繋がっていきますので，今後も継続したいと考えております。ご支援・ご協力をお願いします。

国内からは平田静子氏(中国工業技術研究所)と前嶋義夫氏(浜松工業技術センター)に総説をお願いしました。ありがとうございました。

昨年 12 月に山梨大学において第 3 回 FIA 技術講習会（群馬大工　板橋英之，エフ・アイ・エー機器(株)　樋口慶郎，愛知工大　手嶋紀雄の 3 講師の指導）が行われました。その関連記事も寄稿してもらいました。FIA の底辺がゆるやかでも拡大していくことは大変うれしいことです。

会員の皆様に多大な支援をいただき Journal FIA がじょじょにではありますが，充実するよう努めたいと思っております。なお，第 38 回 FIA 講演会が喜納兼勇氏のお世話で琉球大学で行われます。沖縄での初めての講演会ですので奮って参加下さい。

Journal FIA
編集委員長　酒井　忠雄